

愛知県畜産総合センターだより

(平成26年7月)

センターの自給飼料生産について

ここ数年の飼料価格の高騰・高止まりを反映し、本県の酪農家においても自給飼料生産への関心が高まっていると聞きます。特に輸入粗飼料については、中国を始めとした国際的な需要の高まりにより、価格が高騰し続けており、自給飼料生産を考える農家の方も多いと思います。国の施策も水田農業経営安定対策の一つとして、数年前から耕畜連携による飼料用稲の普及拡大を推進しており、今年度は都府県の酪農家を対象に粗飼料増産に係る取組に対して1頭あたり6,100円を助成する「都府県酪農経営国産粗飼料利用体制強化事業」を単年度事業で創設し、自給粗飼料増産を施策誘導しています。センターでは、開場以来、自給飼料生産を続けており、よい機会なので自給飼料生産の近況を報告します。

センター本場の飼料畑は、場内に約8ha、農業大学校に隣接する美合圃場が2.5haの計10.5haです。作付している飼料作物は、イタリアンライグラス、トウモロコシ・ソルガムの混播、エンバク等で、牧草類は、ロールベアラで収穫しサイレージ調製しています。また、トウモロコシやソルガムは細断ロールに調製しています。

昨年度は10.5haの飼料畑で、約800t(生草換算)の自給飼料を収穫し、必要な粗飼料全体の約40%を賄いました。

今年度は、栄養収量の更なる増加を目標に、昨年度はイタリアンライグラスを作付した美合圃場でもトウモロコシ・ソルガムを作付し、飼料畑全体の約50%まで増やしています。今年度の7月までの収穫状況ですが、イタリアンライグラス(3番草まで)とエンバクは前年比105%となっています。

トウモロコシ・ソルガムの作付圃場のうち場内では、電気牧柵(2mm径のフェンシングワイヤーの3段組、常時8,000Vの電圧)を設置しており、今までのところイノシシの被害もなく順調に生育しています。7月の台風8号の影響で、残念ながら美合圃場でソルガムの一部が倒伏し、収穫に若干影響が出る見込みです。収穫作業は8月上旬から場内、美合圃場の順に実施し、細断ロールとして調製していきます。



恒久型電気牧柵



場内のトウモロコシ・ソルガム作付状況



台風被害の美合圃場

輸入粗飼料の価格が高騰し、各地で自給飼料生産や飼料用稲の取組が強化されています。新城地域では畜産農家主体で飼料用稲や牧草収穫を数10haで取り組んでおり、知多半島では民間業者による遊休農地の集積活用による細断型トウモロコシサイレージ生産、耕種農家との連携した稲ソフトグレインサイレージ(粳米のサイレージ)の取組も始まっています。海外の作況や為替の影響による飼料価格高騰の影響を少しでも緩和するため、今一度自給飼料生産を見直してみませんか?